

## 顧客本位の業務運営に関する取り組み状況

2019年9月現在

UBS アセット・マネジメント株式会社

### 1. Client Experience 向上会議における取り組み

「顧客本位の業務運営を確立するための取り組み方針」の下、「Client Experience 向上会議」において、当社のみならず業界全体における取り組み状況を定期的に確認いたしました。

なお、当社が継続して推進して参りました各取り組みの進捗状況は以下の通りです。

#### 「重要な情報の分かりやすい提供」への継続的な取り組み

- サステナブル投資関連ウェブサイトの刷新

当社注力分野の一つであるサステナブル投資関連ウェブサイトを UBS グループの取り組み、主要戦略、関連ファンド、関連レポートに体系立ててご紹介する構成に大幅刷新いたしました。

これは、世界的に急速に拡大するサステナブル投資が、今後より一層お客様の中長期の資産形成する上で必要不可欠になるとの考えのもと、当社の取り組みを分かりやすくご紹介することを目的としております。

詳しくは、以下のサイトをご覧ください。

[サステナブル投資関連ウェブサイトはこちら](#)

- お客様向け資料(旧:販売用資料)および目論見書における取り組み

当社が提供する運用商品の特長やリスク、魅力を分かりやすくお伝えする取り組みとして、お客様向け資料(旧:販売用資料)および目論見書の改善を継続しております。

また、Client Experience 向上会議では、お客様向け資料および目論見書における改善の取り組み状況を各ファンドの開示項目ごとに定期的に確認いたしました。

- 投資関連情報の提供力強化への取り組み

お客様にとって投資関連情報の入手が容易でない資産クラスや市場を主要投資対象とする運用商品の提供力の強化と合わせ、ファンドに直結する情報のみならず現地の経済動向や時事問題などの関連情報に関するセミナーを開催、関連レポートも作成するなど、投資関連情報の提供力強化への取り組みを継続しております。

#### 「顧客中心主義」を意識したサービス・クオリティの維持

- 営業部門とクライアント・サービス部の緊密な連携による「顧客中心主義」を意識したサービス・クオリティを維持し、投資家のお客様から直接頂いたお問い合わせに迅速かつ的確にお答えしております。

### プロダクトレビュー会議による網羅的な検証

- 四半期に 1 度開催されるプロダクトレビュー会議において、お客様のニーズを満たす質の高いサービスを継続的に提供していることの確認を継続しております。  
なお、本年 4 月に、当社がホームページに開示した成果指標 (KPI) である当社設定ファンドのリスク・リターンの中かで、ファンドのリスクと比較してリターンが不芳なファンドもありました。  
これらのファンドについては、4 月開催のプロダクトレビュー会議にて精査し、ファンドの運用目的に沿った運用が行われていることと、お客様の投資ニーズに合致した商品を持続的に提供していることを確認いたしました。

### リスク委員会における継続的な協議

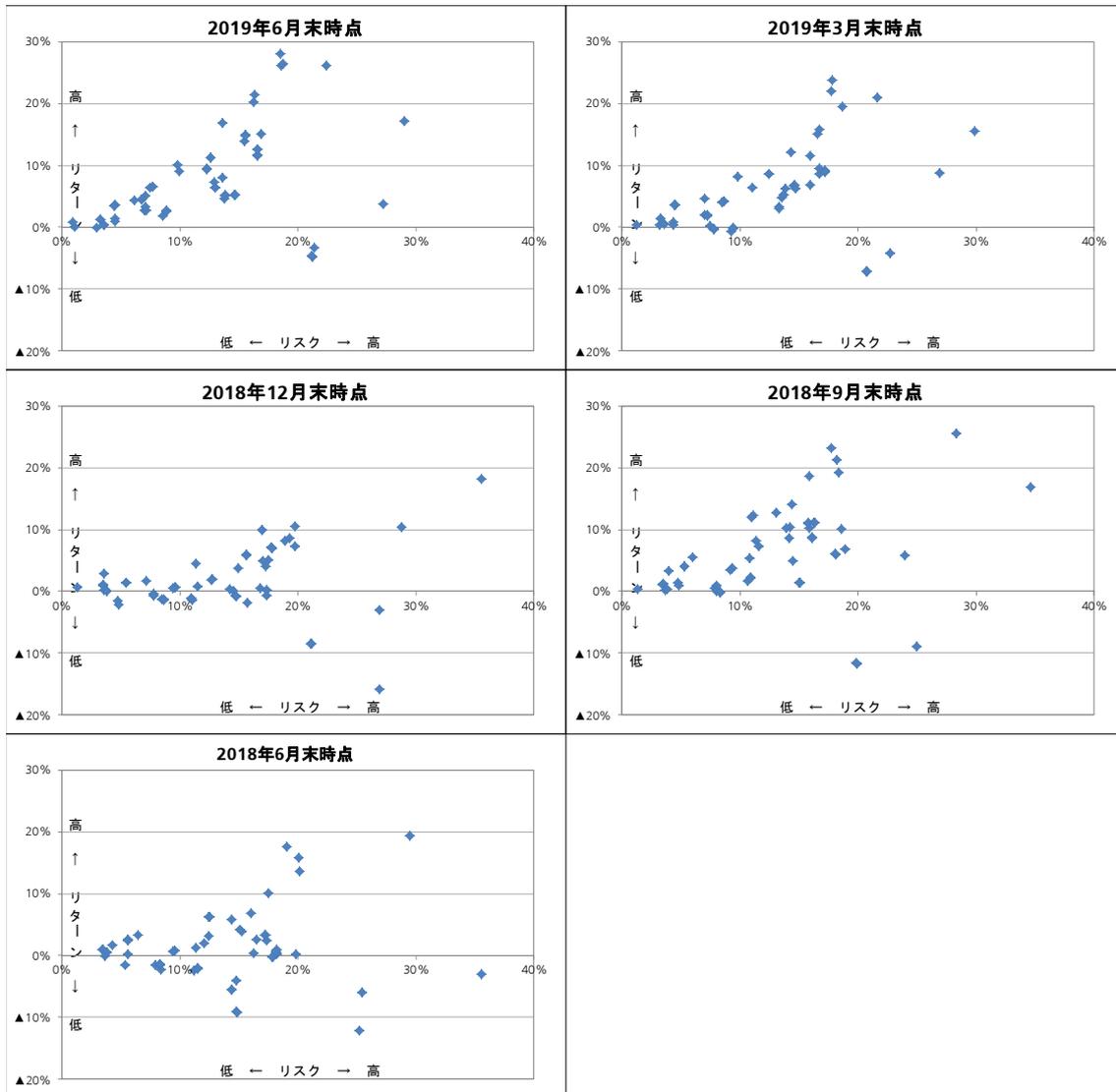
- 月次で開催されるリスク委員会において、お客様の最善の利益の追求を目指した運用が継続されていることの確認及び適宜改善策等の協議を継続しております。

## 2. 成果指標 (KPI) について (2019 年 6 月末現在)

2019 年 3 月末より当社が年 2 回開示することといたしました成果指標 (KPI) である、当社設定ファンドのリスク・リターンの分布状況について、2019 年 6 月末現在までの過去 1 年間の推移は以下の通りです。

### 概況

- リターンに関しては、どの時点も 6 割以上のファンドがプラスリターンを記録し、概ねリスクの高さに比例してリターンも高くなる傾向が継続しています。  
2019 年 1-6 月期の証券市場は、貿易摩擦の長期化による不透明感が蔓延したものの、景気悪化懸念を警戒した出口の見えない金融緩和と政策による低金利状態を背景にリスク資産へ資金のシフトが継続、リスク資産が全般的に上昇した結果、2019 年 6 月末時点で 9 割を超えるファンドがプラスリターンを記録、お客様の中長期の資産形成に貢献し得る運用商品を持続的にご提供出来ていると考えています。
- 他方、昨年の新興国通貨や株式市場の一部における大幅な調整による影響から、過去の時点においては年率 10% 強のマイナスリターンを記録するファンドもあり、全ファンド単純平均のリターンは、年率 1% 前半から 6% の間で推移し、計測時点毎に差異が生じました。
- リスクに関しては、引き続き全時点とも全ファンド単純平均のリスクが年率 11% 後半から 14% の間で推移、各ファンドのリスク水準にも左程大きな傾向の変化は見られませんでした。市場の動意の薄さを反映し、今年に入り全体的なリスク水準は低下傾向にあります。



※各時点、設定から3年以上経過したファンドを対象にしております。

※リターン:各時点において、過去3年分の月次リターン累積値を年率換算しております。

※リスク:各時点において、過去3年分の月次リターンの標準偏差を年率換算しております。

以上